令和２年度　第１回　岩手県道路メンテナンス会議

日時：令和２年８月２７日（木）
13:30～15:30
場所：岩手河川国道事務所ほか
[Web 会議]

次　　第

１．開　会

２．挨　拶

３．道路メンテナンスに関する最近の話題　【資料１】

４．議　事

（１）これまでの活動経緯　【資料２】

（２）令和元年度の点検結果（速報値）　【資料３】

（３）二巡目点検計画　【資料４】

（４）令和２年度の活動計画（案）　【資料５】

資料1

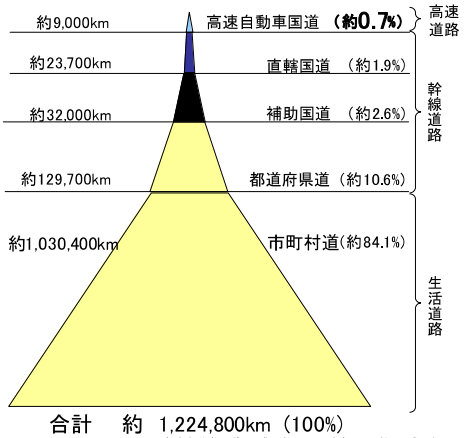
道路メンテナンスに関する最近の話題

国土交通省
東北地方整備局
道路部　道路保全企画官
武田　滋生

日本の道路の現況

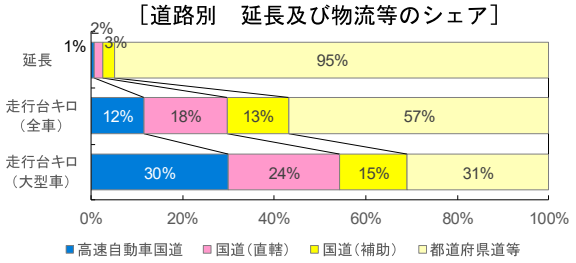
○高速自動車国道と直轄国道は、延長割合が低いが、交通量の約３割、貨物車交通量の約４割を分担

［日本の道路種別と延長割合］



高速自動車国道：平成31年4月1日時点、その他：平成30年4月1日時点
注）各々の延長は100km単位となるように 四捨五入したため合計と合致しない

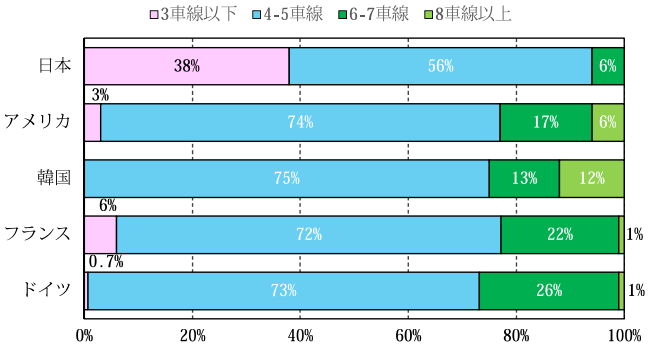
［道路別　延長及び物流等のシェア］



※走行台キロは、「平成27年度全国道路・街路交通情勢調査」「自動車燃料消費量統計年報 平成27年度分」による。

○日本の高速道路は車線数が少ない。

［高速道路の車線数別延長の構成比］



高速道路の対象）日本：高規格幹線道路
韓国：Expressway
アメリカ：インターステート（Interstate）
ドイツ：アウトバーン（Autobahn）
フランス：オートルート（Autoroute）

出典※1）日本：国土交通省資料（平成27年）
韓国※2：国土海洋部統計年報(2017)
アメリカ：Highway Performance Monitoring System 2015（FHWA）
ドイツ：Straßenverkehrszählungen 2015（BSsT）
フランス：Voies par chaussée sur le réseau routier nationa(2017)
※1　各国、最新年度の調査データを使用
※2　［参考］韓国（3車線以下）：44%(平成7年)

○都市間連絡速度は依然として低い。

［都市間連絡速度の国際比較］

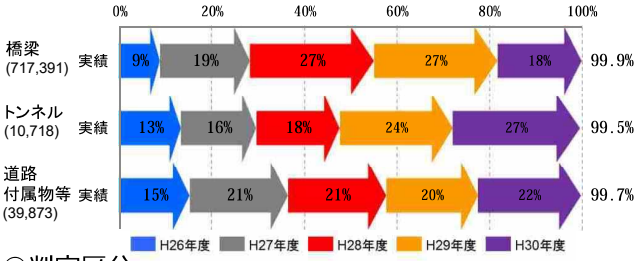
	日本	ドイツ	フランス	イギリス
平均連絡速度	60 km/h	95 km/h	96 km/h	80 km/h

都市間連絡速度：都市間の最短道路距離を最短所要時間で除したもの
対象都市　　：拠点都市（都道府県所在地等）及び一定の距離離れた人口5万人以上の都市、主要港湾
所要時間　　：所要時間経路探索システム（Google Maps等）による

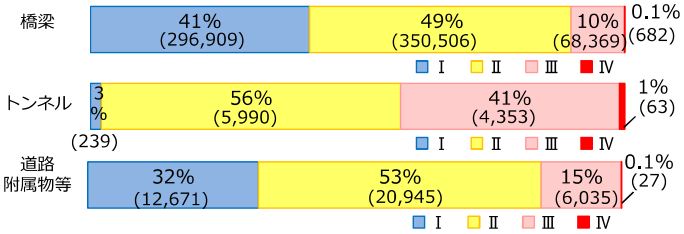
道路施設の点検状況

【道路施設の点検状況（１巡目）】

○平成26～30年度の点検実施状況



○判定区分



（全施設の判定区分Ⅲ・Ⅳの合計：79,529施設）

【地方公共団体の状況】

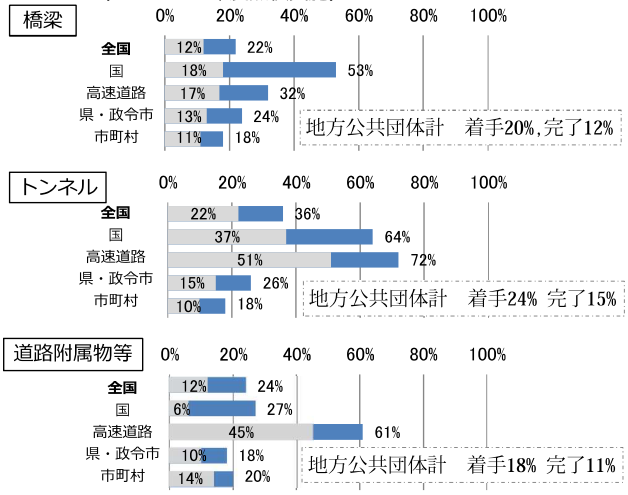
○橋梁管理に携わる土木技術者数

	自治体数	土木技術者数	
		0人	1人～
市	751	51(7%)	700(93%)
町	689	168(24%)	521(76%)
村	160	95 (59%)	65(41%)
市町村	1,600	314(20%)	1,286(80%)

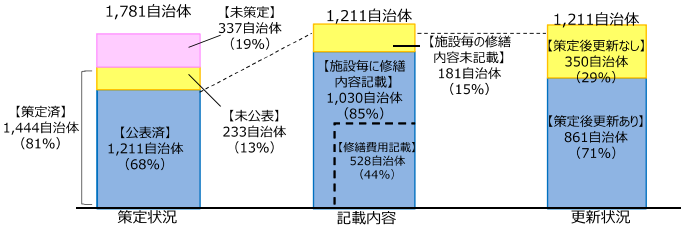
※市は特別区を含む　※有効回答数：1,600　※令和元年6月末時点

○判定区分Ⅲ・Ⅳの修繕着手・完了状況

（H26～H30年度点検実施）



○個別施設計画の策定状況 ※平成31年3月31日時点



（１）道路の老朽化対策の本格実施 ①

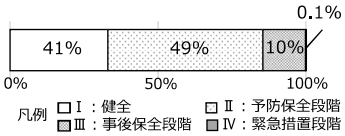
■ 点検結果を踏まえた老朽化対策（判定区分Ⅲ・Ⅳの早期措置が必要な施設への対策）に関する地方への支援の新たな枠組み（早期措置支援スキーム）を導入し、予防保全による道路の老朽化対策への転換を図ります。

＜背景／データ＞

2018年度までに点検を実施した橋梁のうち、次回点検までに措置を講ずべき橋梁（判定区分Ⅲ・Ⅳ）について、修繕に着手した割合は、地方公共団体で約20%、修繕が完了した割合は約12%

＜2014～2018年度橋梁点検実施状況・実施結果＞

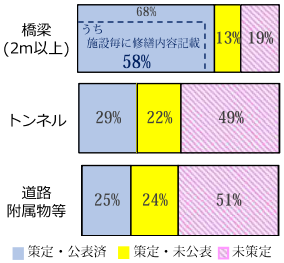
管理者	点検実施率
国	99.9%
高速道路会社	100%
都道府県･政令市等	99.9%
市町村	99.9%
合計	99.9%



＜判定区分Ⅲ・Ⅳの橋梁の修繕状況＞

管理者	地方公共団体
修繕必要数	62,977橋
修繕着手数（割合）	12,700橋（20%）
修繕完了数（割合）	7,430橋（12%）

＜長寿命化修繕計画の策定状況＞（地方公共団体※）



※全道路管理者合計の修繕が必要な施設数
橋梁：約6万9千橋、トンネル約4千4百施設、
道路附属物等：約6千施設

※都道府県、政令市、市区町村

【地方への財政的支援】

○早期措置が必要な施設の対策内容も盛り込んだ長寿命化修繕計画の策定を地方公共団体に促し、計画的な修繕を実施

○長寿命化修繕計画に基づき実施される道路メンテナンス事業（橋梁、トンネル等の修繕、更新、撤去）に対し、計画的かつ集中的な支援を可能とする個別補助制度を創設し、修繕着手率の向上※を目指す

※1巡目点検で判定区分Ⅲ・Ⅳと診断された施設に対し、今後5年以内に100%を目指す。

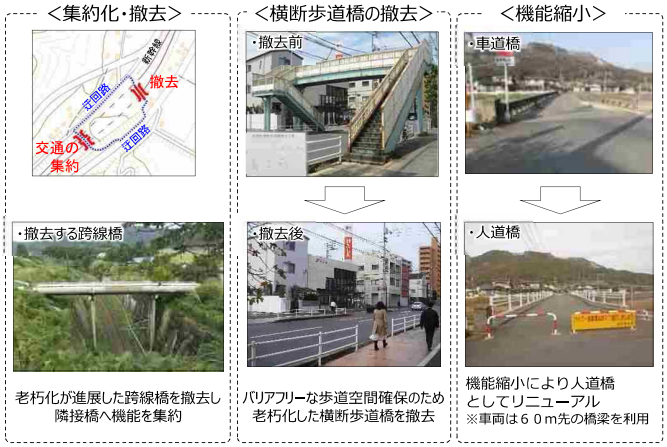
＜個別補助制度（道路メンテナンス事業補助制度）の概要＞

○実施にあたっては国庫債務負担行為を可能とし、効率的な施工の実施と工事の平準化を図ることが可能

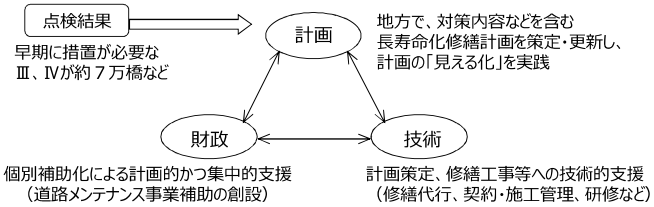
（１）道路の老朽化対策の本格実施 ②

【集約化・撤去、機能縮小の支援】

○集約に伴う構造物の撤去や横断する道路施設等の安全の確保のための構造物の撤去、通行を歩行者に限定するなどの機能縮小に取り組む



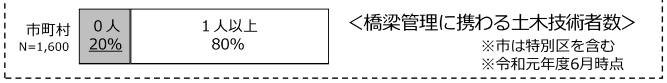
【道路の老朽化対策の早期措置支援スキーム（イメージ）】



【地方への技術的支援】

＜背景／データ＞

・老朽化対策の課題（P69参照）
　橋梁管理に携わる土木技術者が存在しない市区町村の割合は、全体の約2割を占めている。



○緊急かつ高度な技術力を要する施設を直轄診断し、結果に応じて修繕代行事業等により引き続き支援[参4]

○市町村の人不足・技術力不足を補うために、地域単位での点検業務の一括発注を継続実施するほか、修繕工事等に伴う契約・施工管理等について先行的な事例を参考に必要な技術的支援を実施

○地方公共団体向けの修繕に係る研修の充実や、点検に係る資格制度の検討等を通じて、技術力の向上策を実施

＜直轄診断＞　＜修繕代行＞　＜研修実施状況＞

参4：直轄診断(2014～2019年度)：12箇所、修繕代行(2015～2019年度)：11箇所

（１）道路の老朽化対策の本格実施 ③

【新技術の積極的な活用】

＜背景／データ＞

・インフラの老朽化は着実に進行し、働き手は減少が見込まれる

・新技術の開発・導入により、インフラメンテナンスの生産性向上等を図ることが必要

○新技術導入促進方針(案)に基づき、これまで新技術の活用が十分でなかった異業種、他分野、新工法、新材料等も含めて、新技術開発・導入を促進

[新技術導入促進方針(案)]

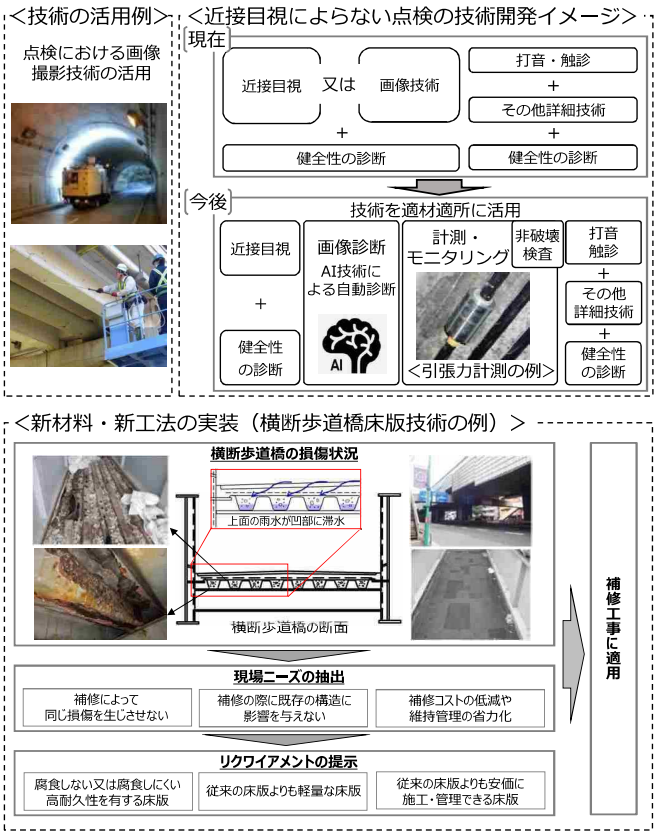
《方針(案)に基づく取組例》

①道路空間における非接触充電システム技術に関する提案を募集し、令和２年度より技術開発に着手

②現場ニーズと開発者シーズのマッチングによりカタログ[参5]を充実し、近接目視によらない点検手法のベストミックスに取り組む

③軽量で高耐久性を有するなど現場のニーズに対応した新材料・新工法を公募・実証し、補修工事への活用を推進

参5：点検支援技術性能カタログ（案）（2019.2）：国の管理施設等の定期点検業務で仕様確認された技術を、カタログ形式でとりまとめたもの



（１）道路の老朽化対策の本格実施 ④

＜背景／データ＞

・建設開始後半世紀を経て老朽化が進む高速道路の更新を、厳しい財政状況のなかでも迅速かつ計画的に推進する必要

○構造物の点検結果（平成26～30年度）と建設経過年数【高速道路会社】

特定更新の進捗状況（橋梁、トンネル）【令和元年９月現在、延長ベース】
橋梁：N東 4.8%、N中 1.4%、N西 2.9%　トンネル：N東 0.5%、N中 0.2%、N西 1.5%

【高速道路の更新】

○コスト縮減に関する取組や新技術の活用等も進めつつ、計画的に事業を推進

施工延長：約150m（トンネル延長1960m）
事業年度：平成29年度～令和元年度

・トンネルのインバート設置工事による影響を最小限に抑えるため、２車線のうち片側１車線を供用させながら車線規制により工事を実施
・交通混雑期や土日における車線規制は実施しないよう工程調整を行い、工事に伴う渋滞の発生を抑制

＜更新の事例：上信越自動車道（碓井軽井沢IC～佐久IC　碓氷流山（あかるさん）トンネル）＞

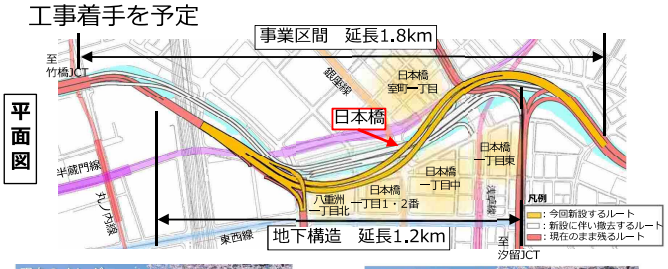
＜移動式防護柵による車線切替状況＞

＜大型移動式防護車両の開発＞

【まちづくりと連携した首都高速の地下化への取組】

○ 更新事業として老朽化対策のみならず、機能向上を図るとともに、民間プロジェクトと連携した日本橋地区の地下化の取組を推進

○令和元年10月に都市計画変更手続きが完了。
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後の工事着手を予定



※周辺の再開発の計画は反映していない

東北地整における国の技術支援の現状について

国土交通省

国の技術支援の現況

① 構造物実務者研修の自治体参加状況

	自治体数	参加自治体数	参加割合
東北 H26～R元	233	77	33%
全国 H26～H30	1,807	921	51%

② 点検実習講習会（山形県）

・橋梁点検についての座学と実橋を使った点検実習を実施

③ 橋梁補修工事現場講習会（岩手県）

・橋梁補修についての座学と工事現場の見学を実施

④ 支援技術講習会（秋田県）

・支援技術についての座学と支援技術実演を実施

⑤ T19における橋梁被害調査（TEC-FORCE）

・福島県矢祭町や鏡石町から要請を受け、被災した橋梁の調査と技術的助言などを行った

⑥ メンテナンスに関する広報（山形県）

Co打音検査体験　　Tn点検車乗車体験

・一般者を対象とした老朽化対策等の広報を実施

⑦ 直轄診断・修繕代行

H26直轄診断
H27修繕着手
H28修繕完了

三島大橋（福島県三島町）

H27直轄診断
H28修繕着手
H29修繕完了

沼尾シェッド（福島県下郷町）

H28直轄診断
H29修繕着手
R2事業中

万石橋（秋田県湯沢市）

・地公体からの要請を受け、緊急かつ高度な技術力を要する施設に対して直轄診断及び修繕代行事業を実施

令和2年度　第1回
岩手県道路メンテナンス会議

令和2年8月27日

議　事

1. これまでの活動経緯　【資料2】

2. 令和元年度の点検結果（速報値）　【資料3】

3. 二巡目点検計画　【資料4】

4. 令和2年度の活動計画（案）　【資料5】
   （1）活動方針
   （2）年間スケジュール
   （3）技術力向上、点検の効率化
   （4）技術支援
   （5）広報活動

1. これまでの活動経緯

資料２－１

メンテナンス会議の目的

【会議設立趣意】

- インフラの老朽化対策が社会的な課題
- 地方自治体においても、道路インフラを適正に維持管理していくことが重要
- 特に市町村では、道路構造物の維持管理についての技術ノウハウや土木技術系職員が不足しているなどの課題
- 今後は、点検や計画策定の定期的な実施に加え、それに基づく修繕の実施も大きな課題
- 国において策定された「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、各インフラの管理者は、「インフラ長寿命化計画」及び「個別施設毎の長寿命化計画を策定する必要あり
- これらを踏まえ、橋梁・トンネル等の定期的な点検がスタートしようとするこの機に、道路管理者が連携しながら、技術力の向上、インフラの長寿命化の推進、さらには道路インフラの維持管理についての情報共有や課題解決への連携を深め、道路の管理を効果的に行っていくことが急務
- これらの取り組みに当たっては、個々の道路管理者で対応するよりも県内道路管理者が一体となって対応することが効果的であり、そのための新たな組織が必要

1. これまでの活動経緯

資料２－１

メンテナンス会議の目的

【規約】

（事業）第3条　会議は第2条の目的を推進するため、次の事業を実施する。

（1）道路メンテナンスに関する情報共有に関する事業
（技術基準説明会や現地研修会の実施、損傷事例や対応事例、点検や措置状況等）

（2）関係者の意見調整に関する事業
（点検、補修等に重点的に取り組むべき路線に関する意見調整、対外協議に関する調整等）

（3）国民・道路利用者等を対象とした広報に関する事業
（点検結果や構造物の健全度に関する情報発信、老朽化対策に関する関心と理解の醸成等）

（4）前各号に挙げるものの他、会議の設立の目的に沿った活動の企画及び実施に関する事業

1. これまでの活動経緯

資料２－２

岩手県道路メンテナンス会議の活動記録

年度	月	会議開催	研修・講習会	広報活動
2014 （H26）	4～6	5/20　第1回道路メンテナンス会議（設立）		6/24～7/4　道の駅石神の丘パネル展示
	7～9	9/5　第2回メンテナンス会議	8/27　橋梁点検研修会（浅岸橋） 参加者59名 9/26　両磐地区橋梁点検現場研修会 （大久保橋・谷起島橋）参加者29名	7/14～24　道の駅石鳥谷パネル展示 7/28～8/7　道の駅たろうパネル展示 8/1～29　岩手県庁県民室パネル展示
	10～12			10/25　古くなった橋や直した橋の見学会 （浅岸橋・北山こ線橋）一般参加者18名
	1～3	1/15　第3回メンテナンス会議 3/10　こ道橋連絡会議（設立）		
2015 （H27）	4～6	6/2　第1回道路メンテナンス会議		
	7～9	8/27　第2回メンテナンス会議		
	10～12		12/15　メンテナンス研修会 （新田橋・花原市Tn）参加者55名	11/14　トンネル現場見学会 （落合Tn・新区界Tn）一般参加者17名 12/18～1/29　道の駅にしねパネル展示 12/25～1/4　道の駅雫石あねっこパネル展示
	1～3	1/19　第3回メンテナンス会議		1/5～14　道の駅石鳥谷・たろうパネル展示 1/15～24　道の駅石神の丘・やまびこ館パネル展示 1/25～2/4　道の駅区界高原・みやこパネル展示 2/5～14　道の駅遠野風の丘・くじパネル展示
2016 （H28）	4～6			
	7～9	7/4　第1回メンテナンス会議 8/3　こ道橋連絡会議		9/22　盛岡市「バスの日」まつりin大通り 9/25　トラックフェスタ2016in宮古 パネル展示
	10～12		10/31　橋梁補修等現地研修会 （日金橋・新井田橋）　参加者41名	11/20　中津川の橋をめぐる散策見学会 （中津川にかかる5橋）一般参加者26名）
	1～3	3/9　第2回メンテナンス会議 道路鉄道連絡会議（設立）		

1. これまでの活動経緯

資料２－２

岩手県道路メンテナンス会議の活動記録

年度	月	会議開催	研修・講習会	広報活動
2017 （H29）	4～6			
	7～9	7/28　第1回メンテナンス会議 こ道橋連絡会議	9/20　既設橋の耐震対策講習会 （雫石川橋）　参加者63名	
	10～12	12/21　第2回メンテナンス会議	12/5　トンネル補修等現地研修会 （松野Tn・白井Tn）　参加者28名	
	1～3	2/14　第3回メンテナンス会議 道路鉄道連絡会議		
2018 （H30）	4～6			
	7～9	8/7　メンテナンス会議		9/29 岩手県版メンテナンス年報公表
	10～12		10/4 既設橋の耐震対策現場見学会 （雫石川橋）　参加者45名 11/28 橋梁耐震補強等現地研修会 （新太田川橋）参加者40名	
	1～3	2/8　メンテナンス会議 道路鉄道連絡会議		

1. これまでの活動経緯

資料2－2

岩手県道路メンテナンス会議の活動記録

年度	月	会議	研修会・講習会・技術支援	広報活動
2019 (H31) (R元)	4 5 6	4/11　定期点検要領等改定説明会 6/12　事務局会議		
	7 8 9	8/22　第1回道路メンテナンス会議		
	10 11 12		11/26　橋梁補修及び耐震補強工事 現場講習・見学会 場所：前沢南こ線橋（奥州市） 参加者：19名 12/13　溝橋点検講習会 場所：砂込BOX（滝沢市） 参加者：12名	10/7　県版道路メンテナンス概要公表 10/18～　道路インフラ老朽化対策 ポスター展示 （県内道の駅14箇所）
	1 2 3	2/20　第2回道路メンテナンス会議 2/20　道路鉄道連絡会議		

（余白）

2. 令和元年度の点検結果（速報値）

資料３－１

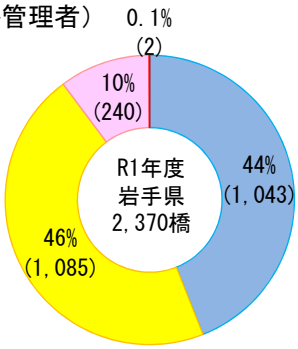
（１）橋梁の判定区分

○橋梁では岩手県（全道路管理者）における
判定区分の割合は、Ⅰ 44%、Ⅱ 46%、Ⅲ 10%、Ⅳ 0.1%

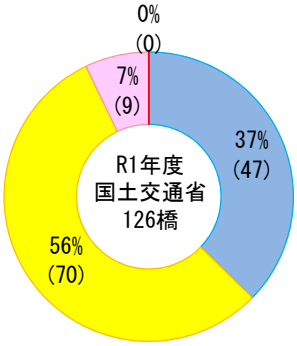
岩手県

管理者	施設数	R1 点検実施数	R1判定区分			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
国土交通省	645	126	47	70	9	0
高速道路会社	691	145	9	89	47	0
県	2,649	718	322	335	61	0
市町村	9,887	1,381	665	591	123	2
合計	13,872	2,370	1,043	1,085	240	2

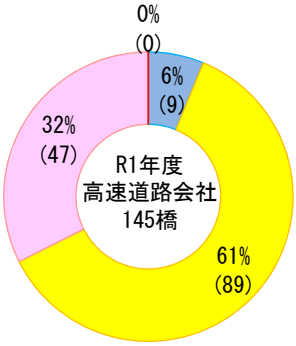
（全道路管理者）



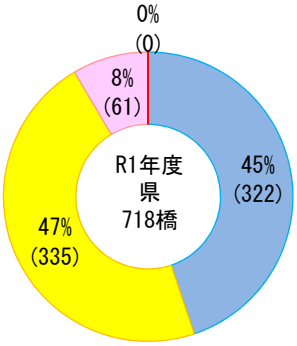
（国土交通省）



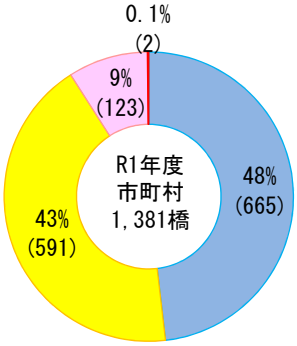
（高速道路会社）



（県）



（市町村）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※数値は速報値であり、精査によって変更する場合がある
※施設数は撤去済・廃止済等の施設を除く

Ⅰ：健全　Ⅱ：予防保全段階　Ⅲ：早期措置段階　Ⅳ：緊急措置段階

2. 令和元年度の点検結果（速報値）

資料３－１

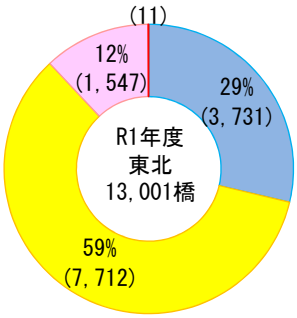
（１）橋梁の判定区分

○橋梁では東北（全道路管理者）における
判定区分の割合は、Ⅰ 29%、Ⅱ 59%、Ⅲ 12%、Ⅳ 0.1%

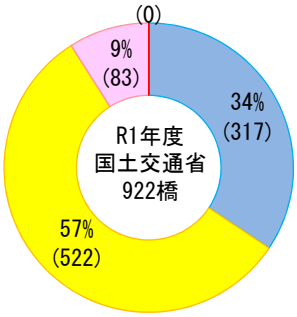
東北全体

管理者	施設数	R1 点検実施数	R1判定区分			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
国土交通省	4,343	922	317	522	83	0
高速道路会社	2,984	615	114	416	85	0
県・政令市	16,867	3,318	821	1,978	517	2
市町村	49,405	8,146	2,479	4,796	862	9
合計	73,599	13,001	3,731	7,712	1,547	11

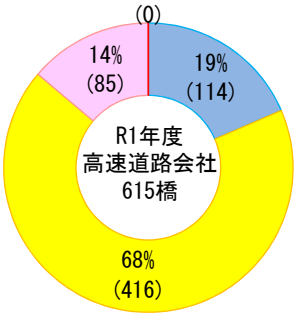
（全道路管理者）



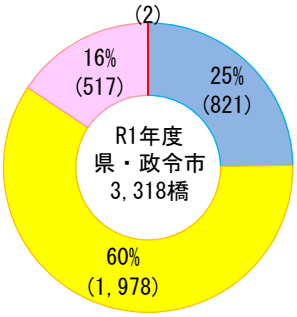
（国土交通省）



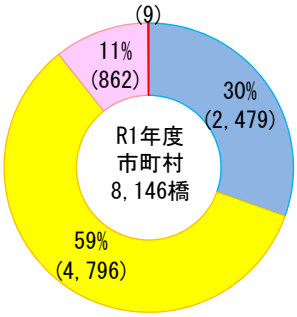
（高速道路会社）



（県・政令市）



（市町村）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※数値は速報値であり、精査によって変更する場合がある
※施設数は撤去済・廃止済等の施設を除く

Ⅰ：健全　Ⅱ：予防保全段階　Ⅲ：早期措置段階　Ⅳ：緊急措置段階

2. 令和元年度の点検結果（速報値）

資料３－２

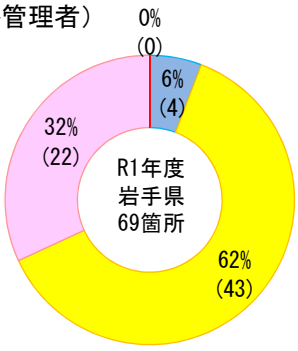
（２）トンネルの判定区分

○トンネルでは岩手県（全道路管理者）における
判定区分の割合は、Ⅰ 6%、Ⅱ 62%、Ⅲ 32%、Ⅳ 0%

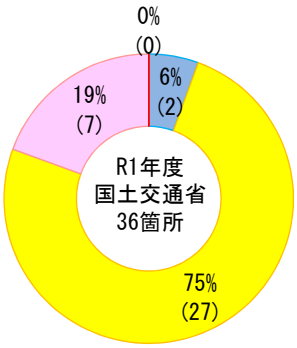
岩手県

管理者	施設数	R1 点検実施数	R1判定区分			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
国土交通省	99	36	2	27	7	0
高速道路会社	29	4	0	3	1	0
県	160	20	1	6	13	0
市町村	42	9	1	7	1	0
合計	330	69	4	43	22	0

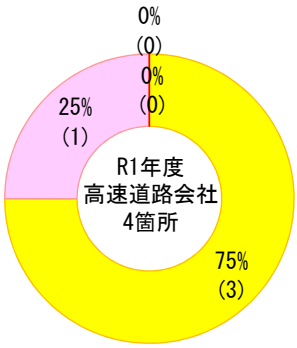
（全道路管理者）



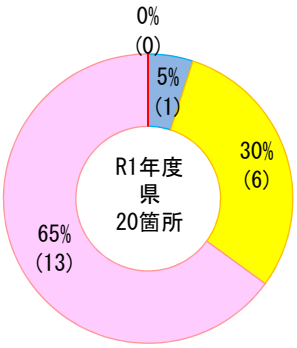
（国土交通省）



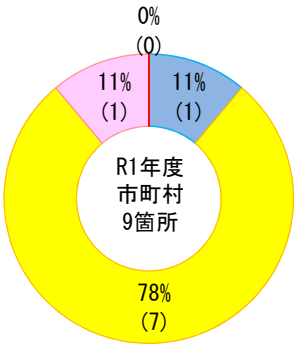
（高速道路会社）



（県）



（市町村）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※数値は速報値であり、精査によって変更する場合がある
※施設数は撤去済・廃止済等の施設を除く

Ⅰ：健全　Ⅱ：予防保全段階　Ⅲ：早期措置段階　Ⅳ：緊急措置段階

2. 令和元年度の点検結果（速報値）

資料３－２

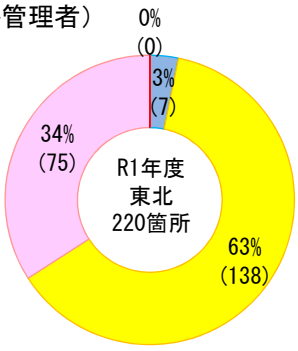
（２）トンネルの判定区分

○トンネルでは東北（全道路管理者）における
判定区分の割合は、Ⅰ 3%、Ⅱ 63%、Ⅲ 34%、Ⅳ 0%

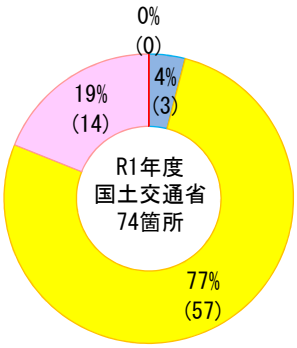
東北全体

管理者	施設数	R1 点検実施数	R1判定区分			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
国土交通省	262	74	3	57	14	0
高速道路会社	126	24	0	17	7	0
県・政令市	578	95	3	45	47	0
市町村	160	27	1	19	7	0
合計	1,126	220	7	138	75	0

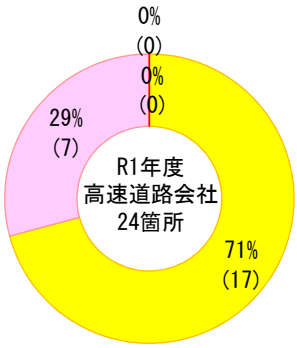
（全道路管理者）



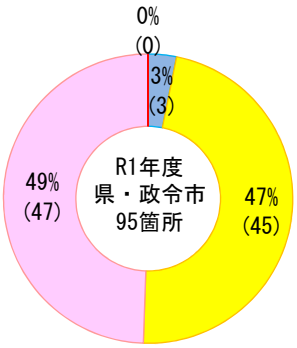
（国土交通省）



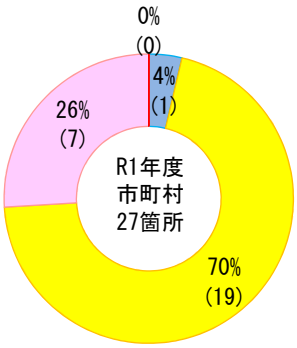
（高速道路会社）



（県・政令市）



（市町村）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※数値は速報値であり、精査によって変更する場合がある
※施設数は撤去済・廃止済等の施設を除く

Ⅰ：健全　Ⅱ：予防保全段階　Ⅲ：早期措置段階　Ⅳ：緊急措置段階

2. 令和元年度の点検結果（速報値）

資料３－３

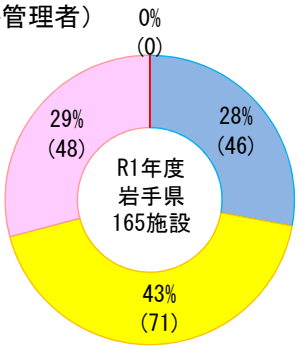
（３）道路附属物等の判定区分
（シェッド・大型カルバート・横断歩道橋・門型標識等）

○道路附属物等では岩手県（全道路管理者）における
判定区分の割合は、Ⅰ 28%、Ⅱ 43%、Ⅲ 29%、Ⅳ 0%

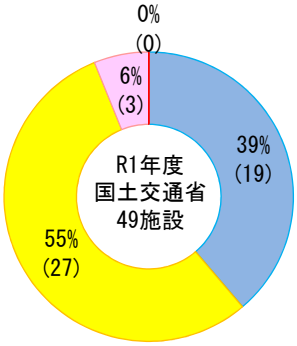
岩手県

管理者	施設数	R1 点検実施数	R1判定区分			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
国土交通省	234	49	19	27	3	0
高速道路会社	177	27	9	17	1	0
県	147	84	17	23	44	0
市町村	52	5	1	4	0	0
合計	610	165	46	71	48	0

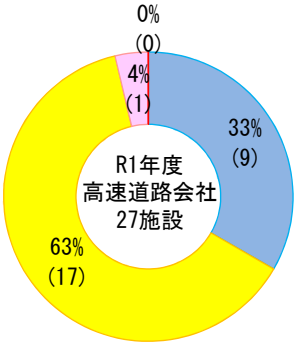
（全道路管理者）



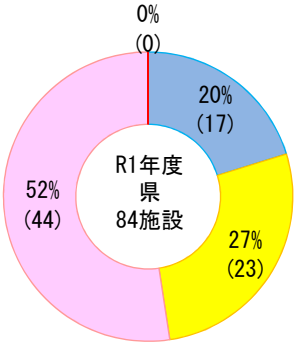
（国土交通省）



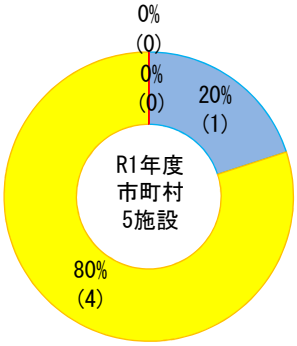
（高速道路会社）



（県）



（市町村）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※数値は速報値であり、精査によって変更する場合がある
※施設数は撤去済・廃止済等の施設を除く

Ⅰ：健全　Ⅱ：予防保全段階　Ⅲ：早期措置段階　Ⅳ：緊急措置段階

2. 令和元年度の点検結果（速報値）

資料３－３

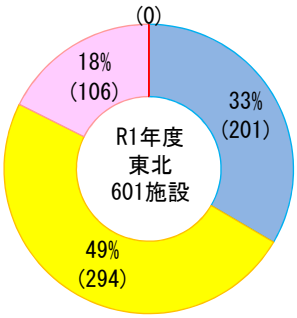
（３）道路附属物等の判定区分
（シェッド・大型カルバート・横断歩道橋・門型標識等）

○道路附属物等では東北（全道路管理者）における
判定区分の割合は、Ⅰ 33%、Ⅱ 49%、Ⅲ 18%、Ⅳ 0%

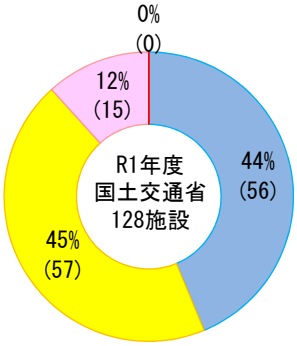
東北全体

管理者	施設数	R1 点検実施数	R1判定区分			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
国土交通省	1, 141	128	56	57	15	0
高速道路会社	906	218	107	108	3	0
県・政令市	1, 120	197	29	91	77	0
市町村	241	58	9	38	11	0
合計	3, 408	601	201	294	106	0

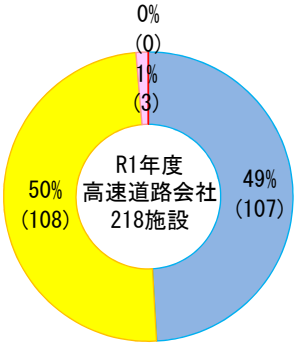
（全道路管理者）



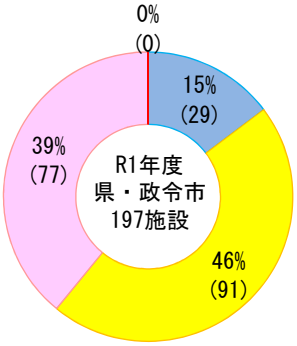
（国土交通省）



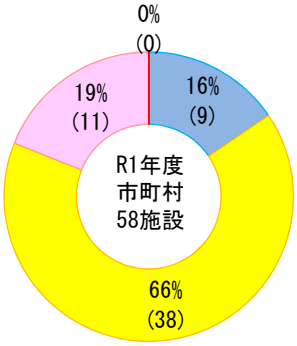
（高速道路会社）



（県・政令市）



（市町村）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※数値は速報値であり、精査によって変更する場合がある
※施設数は撤去済・廃止済等の施設を除く

Ⅰ：健全　Ⅱ：予防保全段階　Ⅲ：早期措置段階　Ⅳ：緊急措置段階

3. 二巡目点検計画（R1～R5）

資料４

○橋梁、トンネル、道路附属物等の点検計画（岩手県）

（１）橋梁の点検計画

管理者名	点検実施総数	R1点検実施数	R2点検予定数	R3点検予定数	R4点検予定数	R5点検予定数
国土交通省	644	126	188	139	94	97
高速道路会社	687	145	126	141	143	132
県	2,774	718	360	586	702	408
市町村	9,798	1,381	2,092	2,816	2,471	1,038
合計	13,903	2,370	2,766	3,682	3,410	1,675

（２）トンネルの点検計画

管理者名	点検実施総数	R1点検実施数	R2点検予定数	R3点検予定数	R4点検予定数	R5点検予定数
国土交通省	99	36	14	18	12	19
高速道路会社	29	4	2	7	7	9
県	169	21	34	36	36	42
市町村	41	7	14	10	4	6
合計	338	68	64	71	59	76

（３）道路附属物等の点検計画（シェッド、大型カルバート、横断歩道橋、門型標識等）

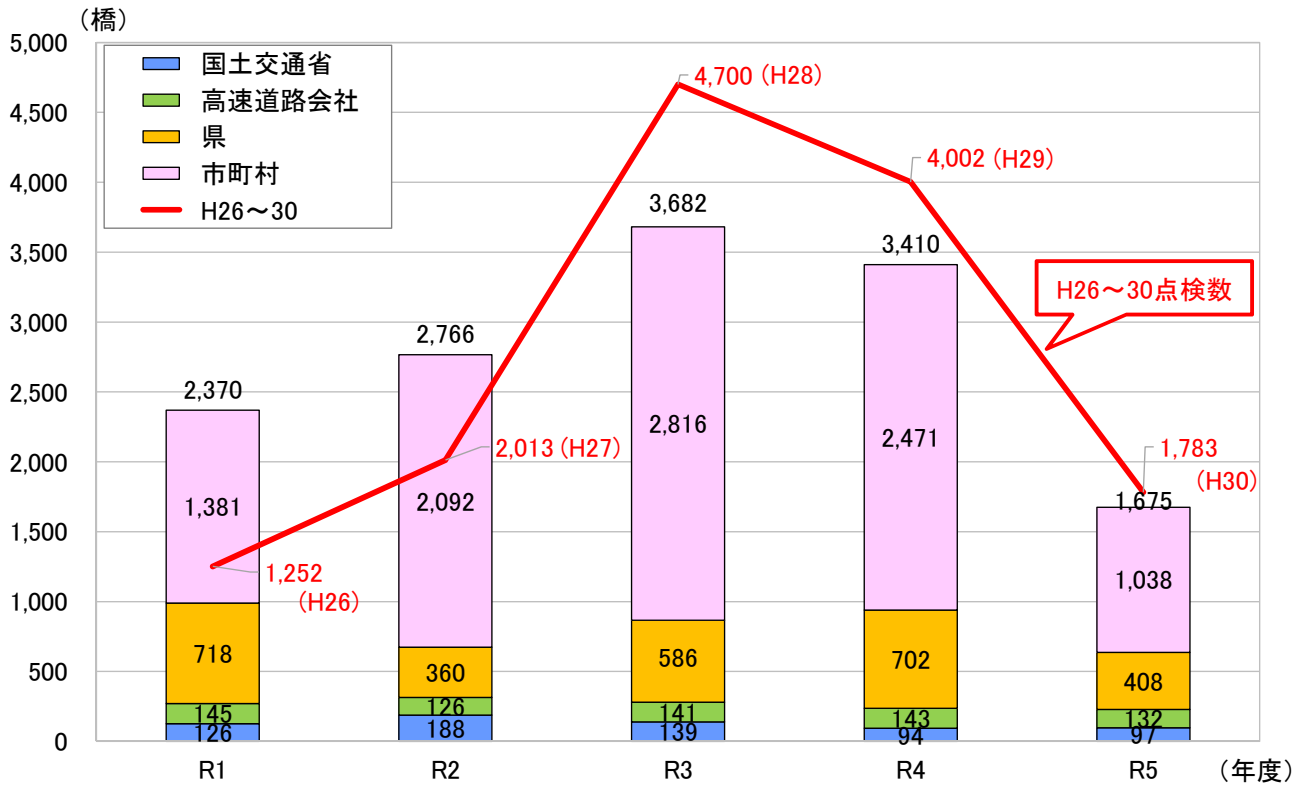
管理者名	点検実施総数	R1点検実施数	R2点検予定数	R3点検予定数	R4点検予定数	R5点検予定数
国土交通省	234	49	60	27	55	43
高速道路会社	177	27	43	35	44	28
県	155	86	0	8	53	8
市町村	43	5	7	14	14	3
合計	609	167	110	84	166	82

※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※予算措置状況、施設の新設・撤去・廃止・管理移管等により変更する場合がある
※施設の新設・撤去・廃止・管理移管・診断中等により施設数と点検数が一致しない場合がある

3. 二巡目点検計画（R1～R5）

資料４

○橋梁の点検計画数の推移（岩手県）



※「道路メンテナンス会議」調べ（令和2年3月末時点）
※予算措置状況、施設の新設・撤去・廃止・管理移管等により変更する場合がある
※施設の新設・撤去・廃止・管理移管・診断中等により施設数と点検数が一致しない場合がある

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－１

（１）活動方針

①市町村の技術支援に重点

- 点検支援技術活用講習会
- 新人市町村職員講習会
- 小規模橋梁点検技術講習会
- 「県内道路メンテナンス支援団」
  ⇒直接現地や役場に出向いて、市町村への技術支援を実施

②広報の拡充（情報発信）

- 道の駅での広報を継続（老朽化の現状や対策による効果の発信）
- 県版「道路メンテナンス概要」を公表

③効率的に会議を開催

- 会議同日に、道路鉄道連絡会議、こ道橋連絡会議を開催
- 会議開催日は議会日程に配慮

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－２

（２）年間スケジュール（岩手県）

年度	月	会議	研修・講習会	広報活動
2020 (R2)	4			
	5			
	6	6/30（局）事務局会議		
	7			
	8	8/27　第１回道路メンテナンス会議	トンネル初級研修（8/18～21）※ 橋梁初級Ⅰ研修（8/24～28）※	
	9			
	10		橋梁初級Ⅰ研修（10/19～23）※ 橋梁補修工事現場講習会（内陸・沿岸） 点検支援技術講習会（内陸・沿岸）	県版「道路メンテナンス概要」公表
	11		橋梁初級Ⅱ研修（11/16～20）※ 橋梁セミナー（11/30～12/2）※ 溝橋点検講習会（内陸・沿岸）	道路インフラ老朽化対策ポスター展示（県内 道の駅　14箇所）
	12			
	1			
	2	第２回　道路メンテナンス会議 道路鉄道連絡会議 跨道橋連絡会議		
	3			

※青字は整備局主催研修

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－２

○道路メンテナンス会議

第1回：本日

- 令和元年度の点検結果（速報値）
- 二巡目点検計画
- 年間活動方針の決定
- 講習会、研修、広報等の実施方針
- 道路鉄道連絡会議、こ道橋連絡会議に向けた作業確認

第2回：令和3年1～2月

- 令和2年度の点検、修繕実施状況
- 令和2年度の活動結果
- 令和3年度の財政支援制度

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－２

○道路鉄道連絡会議、こ道橋連絡会議

道路鉄道連絡会議

開催日程：令和3年1～2月

議題（案）

- 跨線橋の点検実施状況
- 跨線橋の点検・修繕計画
- 鉄道管理者からの要望事項等

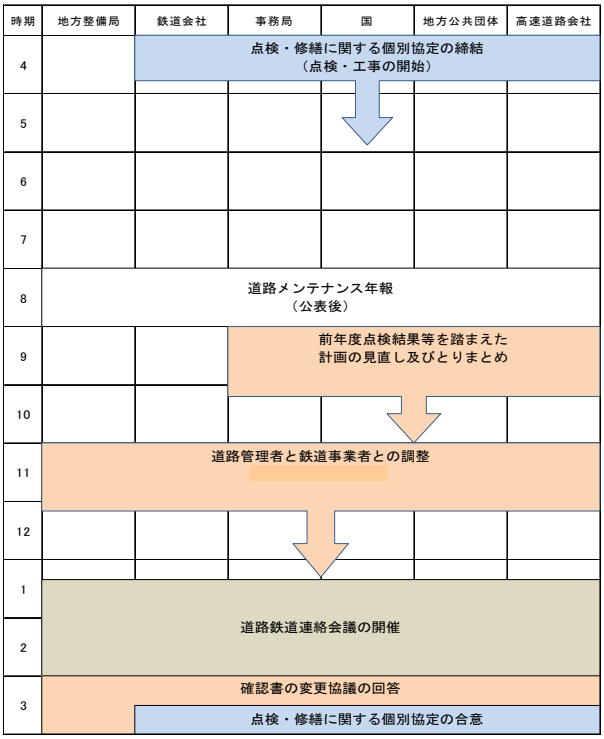
こ道橋連絡会議

開催日程：令和3年1～2月

議題（案）：

- 法定外施設の点検実施状況
- こ道橋管理者からの要望事項等

＜道路鉄道連絡会議の年間予定＞



4. 令和2年度の活動計画(案)

資料５－３

(３)技術力向上、点検の効率化

○地方自治体への支援(東北地方整備局主催研修)

令和元年度の実施状況:延べ37名の地方公共団体職員(24県市町村)が受講

【令和２年度研修（計画）】

①道路構造物管理実務者研修
〈東北地方整備局〉

対　　象:地方公共団体職員及び直轄職員

目　　的:地方公共団体の職員の技術力育成のため、
定期点検要領に基づく点検に必要な知識・技能等を取得するための研修
(橋梁Ⅰ　ⅰ期、ⅱ期は全国統一のカリキュラム
同内容を2回開催予定)

研修名	開催時期	募集期間	募集定員	参加状況※ ( )は地公体職員数
橋梁初級Ⅰ(ⅰ期)	10/19～10/23	9月中旬	50名	募集中
トンネル初級	8/18～8/21	締切済	40名	11名(3名)予定
橋梁初級Ⅰ(ⅱ期)	8/24～8/28	締切済	50名	16名(9名)予定
橋梁初級Ⅱ	11/16～11/20	9/18まで	50名	募集中

※ R2.8.14時点

4. 令和2年度の活動計画(案)

資料５－３

①橋梁補修工事現場講習会

自治体等職員(初心者向け)への橋梁補修工事現場の見学と講習

■参　加　者:自治体職員及び直轄職員
■主　　催:岩手県道路メンテナンス会議
■開　催　日:令和2年10月を予定
■研修内容:1)内陸部の橋梁補修工事現場見学・講習(座学)
2)沿岸部の橋梁補修工事現場見学・講習(座学)

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－３

②点検支援技術講習会

■参　加　者：自治体職員及び直轄職員
■主　　催：岩手岩手県道路メンテナンス会議
■開　催　日：令和2年10月を予定
■内　容：　1）点検を支援する新技術の紹介、新技術利用ガイドライン等（座学）
　　2）実機による飛行デモ、損傷状況分析資料紹介等

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－３

③溝橋点検講習会

自治体等職員（初心者向け）へ「特定の条件を満足する溝橋点検」の座学と現地点検講習

■参　加　者：自治体職員及び直轄職員
■主　　催：岩手県道路メンテナンス会議
■開　催　日：令和2年11月を予定
■研修内容：・特定の条件を満足する溝橋の定期点検、点検支援技術活用に関する講話等
　　・既BOXを「特定の条件を満足する溝橋」に見立てて模擬点検実施

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－４

（４）技術支援（県内道路メンテナンス支援団）

道路施設の点検や保全関係の技術的課題に係る自治体からの疑問や相談に対応するアドバイザーチームとして、『県内道路メンテナンス支援団』を設置
直接現地や役場に出向いて、市町村への技術的助言・支援を実施

市町村管理の道路施設（橋梁、トンネル、道路附属物、舗装、土工等）

支援

支援目的・内容

定期点検促進

予防保全、修繕に係る技術的課題の解決

相談

例えば、
○補修の優先順位を付けるための知恵を貸してほしい。
○点検要領の勉強会を役場で開催したい。
○劣化状況を見に来てアドバイスしてほしい。　　などなど気軽な相談を。

県内道路メンテナンス支援団

＜実施事例＞

H30.11　秋田県湯沢市から損傷が著しいと診断された鋼アーチ橋の措置方法等について相談
→県内道路メンテナンス支援団で現地を確認し、市役所会議室で損傷原因や措置方法について助言

4. 令和2年度の活動計画（案）

資料５－５

（５）広報活動

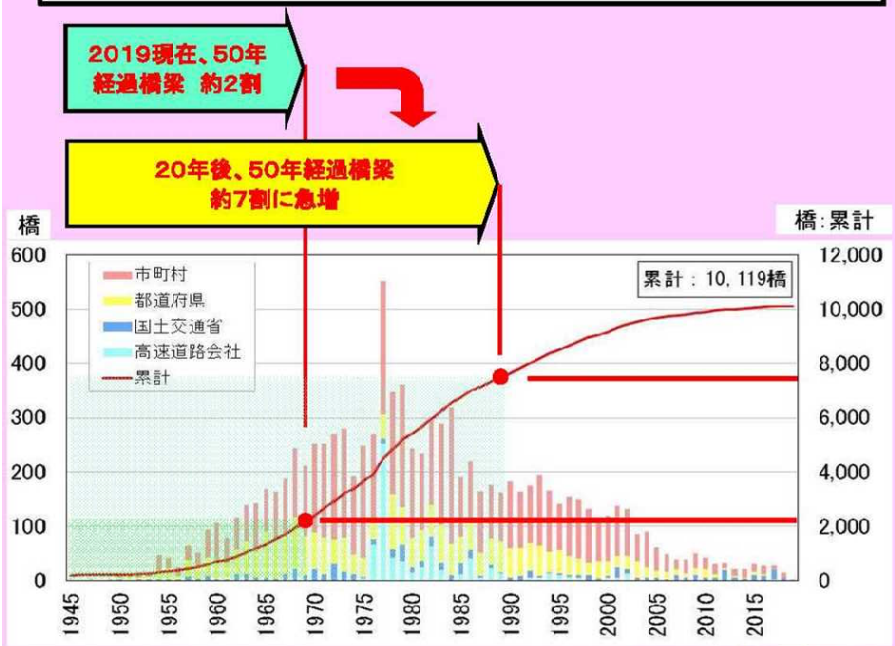
■道路インフラ老朽化対策ポスター展示

道路構造物の現状・将来、定期点検結果、課題と支援制度紹介

■展示時期：令和2年10月～
■展示場所：県内主要道の駅　14箇所

（R元）道路インフラ老朽化対策ポスター

1. 県内の道路構造物
道路構造物のうち橋梁は建設後50年を経過した橋梁は現在、約2割に対して20年後には約7割に急増。
このため計画的・効率的に「点検」～「診断」～「措置」～「記録」を継続して行っていくメンテナンスサイクルの構築が必要です。
※措置とは：補修・補強（工事）、監視、通行規制等を示します。



橋梁を定期的に点検し、損傷状況を把握

各種点検結果や補修等の履歴を記録保存

メンテナンスサイクルイメージ

定期点結果に基づき、損傷原因に関する所見をとまとめ、対策区分を判定し、補修等の計画を策定

補修等の計画に基づき効率的に補修等を行う。

（R元）道路インフラ老朽化対策ポスター

2. 定期点検の実施
平成26年度から、すべての道路管理者が5年に1回の頻度で点検を行っています。

定期点検は構造物の損傷状況を把握し、構造物の健全度の判定を行うために、近接目視を基本としながら、目的に応じて必要な点検機械・器具を用いて実施しています。

橋梁点検の様子

トンネル点検の様子

健全性の診断
点検を実施した施設については、構造物毎に健全度の診断を行い、補修の必要性と緊急性について4段階で判定します。

対策の判定区分

区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

判定区分Ⅱ　事例写真

姫神橋
(4号)
コンクリート
表面塗装
剥離

判定区分Ⅲ　事例写真

下晩鳥橋
(46号)
支承腐食

判定区分Ⅳ　事例写真

古峠橋(大船渡市道) 床版抜け落ち

平成30年7月
補修完了済み

3. 平成26～30年度　1巡目点検の点検結果について

橋　梁

橋梁は、各道路管理者とも判定区分Ⅱの比率が高く、予防保全段階の橋梁が多いことがわかります。また、平成30年度までの定期点検で、判定区分Ⅳの橋梁が12橋確認されています。

4. 判定区分　Ⅲ、Ⅳの修繕着手状況

道路管理者によって修繕着手率が異なっており、特に市町村の着手が課題です。

道路附属物等の修繕着手状況表

	国土交通省			高速道路会社			岩手県			市町村		
	修繕が必要な施設数 A	修繕に着手済の施設数 B	修繕着手率	修繕が必要な施設数 A	修繕に着手済の施設数 B	修繕着手率	修繕が必要な施設数 A	修繕に着手済の施設数 B	修繕着手率	修繕が必要な施設数 A	修繕に着手済の施設数 B	修繕着手率
橋梁	79	61	77%	150	40	27%	233	60	26%	890	285	32%
トンネル	18	11	61%	13	10	77%	48	7	15%	20	9	45%
道路附属物	6	3	50%	23	8	35%	18	1	6%	8	1	13%

A：平成26～平成30年度に判定区分　Ⅲ、Ⅳと判定された施設数
B：修繕（補修工事及び設計を含む）に着手した施設数
※ 平成31年3月末時点　岩手県道路メンテナンス会議調べ

道路附属物とは：ロックシェッド、スノーシェッド、横断歩道橋、門型標識を言います。

ロックシェッド

スノーシェッド

横断歩道橋

門型支柱（道路標識）

5. 課題と支援

市町村は土木技術職員の不足や財政的な問題を抱えており、技術・財政の両面で支援が必要です。

技術的支援取組み事例　　「岩手県道路メンテナンス会議」
市町村担当者を対象に橋梁補修に係わる講習会や工事現場見学会を開催

写真５－１　講習会状況

写真５－２　現場見学状況

・平成26年度以降、10回開催　延べ395名の参加
・市町村職員自ら橋梁点検を実施し、費用の節減を図るなどの効果も

「岩手県道路メンテナンス会議」
道路管理者が連携し技術力の向上、インフラ長寿命化の推進、情報共有や課題解決の連携を深めるため平成26年度に発足

財政的支援　各種制度の紹介

・国土交通省　大規模修繕・更新補助事業費

・修繕
橋脚の補強など、補修補強により性能・機能の維持・回復・強化を図るもの

・総務省　公共施設等適正管理推進事業費

＜橋梁の修繕＞

岩手県道路メンテナンス会議　事務局
・岩手県 県土整備部 道路環境課　TEL　019－629－5878（直）
・東北地方整備局 岩手河川国道事務所　TEL　019－624－3131（代）内208，530
HP検索キーワード：岩手県道路メンテナンス会議　でクリック

この資料について詳しくは、http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/michi/douro_mente.html